防災ハンドブック
はじめに

夢の島復興をめざして、災害に強いまちづくりを

平成5年7月12日、わが奥尻町は、北海道南西沖深さ34kmを震源とする大震災によって、甚大かつ悲惨な被害を受けました。地震直後に予想外の早さと高さで襲来した大津波は、避難しにくい夜間であったこともあって、青苗地区を中心に、島内各地に大きな被害をもたらしました。また、土砂崩れが各処で発生し、建物倒壊による生き埋め等によっても多くの犠牲者が出、道路や水道、電気等のライフラインも寸断されました。さらに、青苗地区では、大規模な火災が発生し、木造建物の密集した海岸の市街地は、折りからの強風と道路寸断による消火活動障害もあって翌日まで燃え続け、同地区は高台部分を除いて、この火災と津波によって、壊滅的な打撃を受け、廃墟と化しました。

しかし、この悲しむべき大災害の後に、全国から寄せられた両面に渡る力強く、暖かい御支援は、私達奥尻町民に、復興へ向けの大きな希望を与えてくれました。私達は、今回の悲惨な体験を通して得られた貴重な教訓を生かして、災害復興に不可欠な三つのこと—家族や親類みんなで力を合わせる「自助」、地域の力を借りて頑張る「共助」、そして行政の支援による「公助」—を大切にしながら、復興のための新たなまちづくりへ向けて、確実な歩みを続けております。

また、本年1月17日未明の大地震で、私達と同様の、いや私達以上の大きな不幸を経験された、阪神、淡路地方の皆様に対して、心からの御見舞を申し上げるとともに、私達が出来る範囲での支援を続けてながら、皆様が一日も早く、安らぎの生活を取り戻されますよう、強く願っております。

今後、こうした不幸を繰り返さないために、種々の防
災対策が講じられていますが、「防災への備え」は、災害に強いまちづくりにより施設面からの対策だけでは不充分です。「自らの命と財産は、自らで守る」という防災の原点に立った町民ひとりひとりの明確な防災意識を醸成することが大切です。

そのような観点から、地震・津波だけでなく全ての災害に対して、「日頃からの備えはどうするか」、「いざという時にどうするか」について、具体的にわかり易く取りまとめ、この防災ハンドブックを作りました。このハンドブックをもとに、町民の皆様が、防災について、家庭や学校、企業、自治町内会などで、話し合ったり、防災講習や訓練活動を行なうなど、積極的に活用されることを望みます。町としても、災害に強いまちづくりを目指して、公共施設の整備充実をはかるとともに、さまざまな防火対策を積極的に推進し、安心して住める夢の島“おくしり”を町民のみなさまとともに築きたいと思います。

平成7年5月
[奥尾町長] 越森幸夫
天災は覚えていてもやっている
けれども記憶し、教訓生かせば、被害は最小限にできる

1993年7月12日午後10時17分。奥尻の北北西67km、深度34km付近を震源とする北海道南西沖地震は奥尻町で、死者・不明者198人、建物全壊454棟の大災害をもたらしました。この大災害がわたしたちに残した反省・教訓はたくさんあります。最大の反省は、「目を傾けないいざというときにあまり機能させられなかったこと」だったのではないですか。地震対策は職場や学校での定期的な避難訓練をはじめ、確実に行われてきました。

しかし、天災は忘れられることにやってくる——というあの先人の知恵を、わたしたちはつい自分のこととして考える切実な危機感に欠けていたと思うのです。津波が時速600kmというジェット機なみの速さで押し寄せることなら、現実に目の当たりにするまではそれが「どれほど凄いものなのか」見当もつきませんでした。周囲を海に閉まれて暮らすわたしたちにとり、これは言葉には表せない大きなショックでした。

ともあれわたしたちは、痛しい犠牲と引き換えに、自然災害の怖さを身にしめして経験しました。これを貴重な教訓として記憶し、地震に限らず、すべての災害に対応できるだけの防災感覚を磨くことが、奥尻復興をになうわたしたちすべてに課せられた義務だといえるでしょう。
目次

はじめに———奥尻町経済総合部長／越桑幸夫…………2
天災は覚えていてもやってくる…………………………4

【地震】
地震の被害は常に予防を上回る………………………6
慌てず奮がず
秩序ある行動があなたを救う………………………8

【津波】
津波は容赦なく
すべてを飲み込む………………………………………10
奥尻周辺は典型的な
地震・津波の危険地帯………………………………12

【火災】
地震図日本。
家屋の多くは紙と木でできている…………………14
火災の原因のほとんどが
人災である………………………………………16

【風水害】
日本列島に台風の
メインストリート………………………………………18
わが家の
風水害対策は万全か…………………………………20
全町の地区別避難所………………………………22
全町の地区別避難所位置図…………………………24
【防災メモ】—避難行動の備え
シミュレーションは
すずるいうことがない………………………………26
【防災メモ】—日常の備え
非常用持出品は
厳選、軽量、コンパクトに……………………27
わが家の防災ノート…………………………………裏表紙
地震の被害は常に予測を上回る

地震は人間の油断を突いてやってる

秩序を忘れた避難が被害を拡大する

生への執着を第一に、荷物を最小限に

地震はいつ起きても不思議ではない

地震・津波・火災は3点セットと心得よう

車で逃げると避難路が限定されてしまう

情報を確かめ、流言にはまどわない

避難路の確認を常に家族の合言葉にしよう

日常の備えがあなたを守る

[グラときたら火の始末]を徹底しよう
【地震に予知は不可能】
地震予知は実はまだ精度が確立していません。だからこそ予知に頼ることなく、日常の備えが大切なのです。

【日本列島の地下はまさに“地震銀座”】
日本列島の地下には北米プレート、ユーラシアプレート、太平洋プレート、フィリピン海プレートが交差する地震銀座。いつどこで地震が起きても不思議はありません。

【震度と被害想定】
気象庁は震度4を家具が激しく揺れる中震、5を家具が倒れる強震、6をガラ崩れや家屋倒壊の発生する烈震、7を断層や家屋倒壊多重の起こる激震に定義しています。ただし津波は震度3(軽微)以下でも発生するので要注意です。

【家具は固定、安全な配置を】
倒れやすいものはきちんと固定し、家具類の上に重たいものは置かないなど、日常から気をつけましょう。

【避難路の確認を日常の合言葉に】
家族で災害時の避難路の確認、待合合わせ場所の確認を常に行っておきましょう。ご近所同士でもこういうときの役割分担、連絡方法などを話し合っておくのも有効です。

【携帯ラジオは永遠の必需品】
電池は年に一度は点検すること。予備の電池も常に新しいものを準備しておきましょう。

【移動電話が使いやすいときに役立つ】
阪神大震災でも電話線を必要としない携帯電話は大活躍。新しい防災用品としての使い道は大きいといえます。
地震が起きたら

【自分の安全確保を第一に】
地震発生！まず自分の安全を確保しましょう。各部がケガをしないことがスムーズな避難活動をもたらします。

【地震が発生したらすぐにドアを開こう】
玄関が唯一の逃げ道になりがちです。逃げ道の確保が生死を分けることになるので、常におきましょう。

【避難時の手荷物は最小限に！】
荷物を取りに戻り、2次災害に巻き込まれる例が目立ちます。必要最小限のものを各家庭からまとめておく、家族や自分の身を安全に避難させることを最優先にすべきです。

【情報は自治体の正式広報にしぼろう】
災害時は情報の混乱が引き起こされがち。自治体情報（防災マップや広報車による巡回）やラジオニュースを信じ、流言はどこでないように。

【津波情報は冷静に聞きなけり】
たとえ注意報でも断絶は除却、海にいる人はすみやかに陸上に上がるべきです（詳細は津波編参照）。

【避難路はなるべく広い通りを選ぶ】
倒壊した建物やブロック塀のそばは危険。急傾斜地の足元は崖崩れの危険が、垂れ下がった電線に触れていけません。

【火の始末はそれぞれの義務】
地震後の火災はみんなが火の始末を心がければそれで Runs、グラフをとсти 火の始末は各自の義務です。

【慌てずに、しかし、すみやかに外に出よう】
一般住宅の場合、周辺の倒壊の心配が心配なら慌てて外に出ることはケガの危険性を考え、控えるべきです。しかし、津波の危険地区ではすぐには出られません。警戒がでなくても、すぐに高台に逃げてください。

【避難は徒歩がいちばん】
車が立つ住屋と避難活動のシュが決まれば、運動靴（冬期には雪受止めのついた防寒靴）などしっかりした足をし、冷静に避難しましょう。
津波は容赦なくすべてを飲みこむ

奥尻周辺の海底地形は津波が発生しやすい
南西沖地震では発生後5分で津波が押し寄せた
海岸線の自動車道路は津波危険地帯
物を取ったり帰る人たちはいない
根拠のないデマが被害を広げる
津波は繰り返してくると心得よう
警報解除までは津波の危険は去らない
津波を避けるコツはとにかく高い場所への素早い避難
【津波】

奥尻周辺は典型的な地震→津波の危険地域

【津波は地震の規模に関係なく発生する】
津波は小さな震度でも起こります。とくに奥尻のような地域では、地震があればすぐに津波を連想するべきです。

【体感地震がなくても津波は起こる】
体感地動がなかった場合、揺れを体感しなくても津波が発生することは珍しくありません。油断は禁物です。

【津波は地震による海底の隆起・沈降作用で起こる】
津波は海底地震による、海底の急激な隆起・沈降作用で発生。とくに奥尻周辺の海底地形は危険要因がいっぱいな点を、日頃から認識しておきましょう。

【家族であらかじめ避難場所を決めておく】
地震・津波発生時の避難場所は、家族全員で日頃から確認しましょう。

【津波は繰り返しやってくる】
とくに2度目、3度目になるとほど津波は高くなる傾向があります。最初の津波が収まったからと言って安心はできません。警報解除が出るまで避難場所にいるべきです。

【警報以前に津波が発生することもある】
南西沖地震では震源が近かったり、海底の地形の関係で地震発生後5分という絶対な見られない早くて津波が発生しました。揺れを感じたらすぐ津波への警戒が必要です。
津波が起きたら

【注意報(警報)が出たらすぐに海を離れよう】
津波予報は「ツナミ警告」が数十cmの高さ、「ツナミ警報」が約2m、「オオツナミ警報」が3m以上の津波発生の見込みをそれぞれ発表します。いずれにせよ、注意報が出たらすぐに海を離れましょう。

【南西沖地震で津波は車ごとさらった】
自動車道路は海岸沿いが多く、地震時に車で逃れることは自殺行為だと認識すべきです。また車による避難は道路をふさがり、他の避難者のスムーズな行動を阻害します。

【海岸から離れ、とにかく高台へ】
地震が発生したら落ち着いて火の始末をせず、とにかく高台へと逃げましょう。

【沿岸付近の船舶は沖合に逃げよう】
津波は陸地に近づくほど高さを増します。海上の船舶は地震が発生したらすぐにかんたんに沖合に逃げてください。

【何はなくとも身の安全】
荷物や親類の心配よりも、まず自分と家族の安全な避難を心がけてください。津波は思わぬ速さでやってきます。

【警報が出たときは自宅に帰らないで!!】
警報発出は津波の危険ゾーンを知らせるもの。南西沖地震では高さの足元に戻ろうとして、被災した例もありました。
火災を防げば地震の
2次災害は激減する

グラッときたら
「火を消せ!」と叫ぼう

避難の前にガスの元栓、
灯油タンクのコックも確認

火災による死亡者の過半数は
幼児おと年寄り

日常の火災予防が
防災感覚を鍛える

類焼防止は初期消火の成否に
かかっている

旅館・ホテルでは必ず非常口を
確認しよう

喫煙者の過半数は骨や
ジュウタンをこがした経験を持つ

消火器は常に点検をしておこう
漏電検査は自分でもできる
火災の原因のほとんどが人災である

【合言葉は地震がきたら火の始末！】
津波と同様に恐ろしい2次災害の代表が火災。津波はすべてを飲みこみ、火災はすべてを焼失させます。

【消火器類は日常の点検が大切】
使用期限は切れていないか、消防庁の基準に合った製品か否かというときのために、定期的な点検が重要です。

【子供とお年寄りの部屋は1階に】
悪戦の連れがちな幼児やお年寄りはなるべく1階で寝るように、火のまわりの状態は予想以上に早いものです。

【可燃性危険物の保存は厳重に】
シンナー、ペンジンなどの可燃性危険物は高い所に置かず、ひとつの箱の中にまとめて保管しましょう。

【風呂には常に水をためておこう】
まず119番、さらに、ちょっとしたボヤなら冷静に水をかけると効果的。沈み込む水はすぐに立つます。

【寝タバコはご法度！】
タバコを喫う人の過半数に罹、ジュータンや布団に吸ったコゲを作った経験が、タバコは相変わらず出火原因のトップなのです。
【タバコの投げ捨てはクセになる】
タバコの投げ捨ては犯罪と心得るべきです。タバコの火は600度～700度。なかなか消えません。

【風呂の空焚きに注意】
水を入れ忘れかねて水をつける空焚きは、火災発生の重大原因。必ず確認を。

【寝る前に必ず火の始末を習慣化】
この当たり前のことを守らない人がたくさんいます。慣れは怠惰に、意欲はいつも Signing 投資を呼び込むます。

【湯沸器ストーブは常に点検を】
湯沸器やストーブはススがたまると不完全燃焼の危険が、暖房機は周囲に物を置かず、正しく使用しましょう。

【恐怖のガス漏れ事故】
ガス漏れに気づいたら元栓をしめ、窓をあけて行う。大量に漏れたときはすぐにガス会社に電話、ご近所にも注意をうながしましょう。

【漏電検査はこまめに実施】
電線を脆化は火災の原因。電気の使用をすべて止めて、それでも電気メーターが動いていたら漏電の証拠です。

【火災を拡大しないための備え】
カーテンを不燃繊維に替えたり、灯油や鍋の油が燃え上がったときの用意に砂を準備するなど、できる範囲内でこまめな対策を。

火災が起こったら
火が出たなら
すみやかな初期消火を
類焼を防ぐためにご近所と協力して素早い初期消火を。火勢の強いときは避難を第一に考えてください。

【煙は空気よりも軽い】
火災による死亡事故の多くは煙（有毒ガス）に巻かれて発生します。煙が充満する前に身を避難しましょう。

【ホテルで火災にあったとき】
旅先で旅館やホテルに泊まるときは、着いたまち非常口の場所・避難経路の確認を習慣化しましょう。

【荷物より生命】
自分の手に負えない火事だと判断したら、すぐに避難しましょう。荷物はまた捨てられますが、たったひとつの生命は取り返しがつかないのでです。
日本列島は台風のメインストリート

台風は年間平均28回発生し、3回上陸する

山と海の国ニッポンは全体が風水害の危険地帯

風速30mから家屋倒壊の危険がはじまる

降雨量が1時間に20mmを超えると要注意

家の補強はドウトユアセルフが基本

台風情報の最新版は刻々と変わる

保存食糧と電池がロウ城生活を支える

自宅周辺の地形的危険度を頭に入れておこう

津波が来なくても高潮が来る

土砂災害は想像以上に怖い！
【風水害】

わが家の
風水害対策は万全か

【台風は年間平均28回も発生する】
地震大国日本は同時に台風銀座。夏から秋にかけて発生する巨大な空気の渦巻き（熱帯低気圧）がその正体です。

【水害危険地域の地理的条件】
造成地、扇状地、山岳地帯は地盤が不安定。海岸付近の低地、河川流域には高潮・洪水の危険。自宅付近の地形を常に意識しておきましょう。

【日本は土砂災害の危険地域だらけ】
地滑り、斜面崩壊、土石流の危険地域が日本には約15万箇所以上あります。山と海にさまれた急傾斜地の多い奥尻も、そのほとんどが危険地域だと自覚しておきましょう。

【風速17m以上になると立派な台風】
風速15mを超えると傘がささなくな、20mを超えると小枝が折れ、25mを超えると屋根瓦が飛び、30mを超えれば家具を倒壊させることもあればです。

【1時間に20mmを超える雨は要注意】
台風は豪雨をもたらすのが通例。1982年に長崎を襲った集中豪雨は3時間になんと315mmを記録しました。
台風進路の右側地域は風がより強い
台風の進路は左巻きなので風向の右側地域の危険がより強くなります。特に航海中の船舶には必須の知識です。

海岸地域は高潮にも警戒を
津波のような速度はありませんが、台風は波を沿岸部に吹き寄せるので、しばしば高潮を引き起こします。

予備の電池が明暗を分けること
台風情報の送信機は、停電でも作動する携帯ラジオ。電池の予備は常に備えておきたいものです。

倒れやすい物は針金・ロープで補強
台風の襲来が予測されるときは、アンテナ、エンドツ、細木など、倒れやすいものを補強をすみやかに。

大工道具はなるべく本格的なものを
家居の補強や雨漏りの応急処置など、家庭には大工道具が必要品。なるべくしっかりしたものを選びましょう。

板戸・屋根・ブロック塀・ベランダ
窓ガラスを守る板戸、トタンのはがれやすい屋根、倒れやすいブロック塀、無防備なベランダ。台風シーズンの前には必ず点検を。

台風情報
ラジオ・テレビの最新版を基準に
台風は発生時から紛れも観測され、常に最新情報が寄せられます。ラジオ・テレビの気象情報に注意しましょう。

急傾斜地付近の住民はすみやかな対処を
奥座は風水害に弱い急傾斜地だけ、ラジオ情報や町の広報には常に耳を傾け、適切な行動を心がけてください。
地区別避難所及び管理責任者、誘導責任者一覧表

<table>
<thead>
<tr>
<th>地区名</th>
<th>電報番号</th>
<th>人口</th>
<th>避難所名</th>
<th>設置名</th>
<th>電話番号</th>
<th>収容人員</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>米岡 (米岡、奥内)</td>
<td>35</td>
<td>94</td>
<td>米岡自治振興会館</td>
<td>2-3558</td>
<td>100</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>池の浜 (中央、東内)</td>
<td>25</td>
<td>61</td>
<td>池の浜避難所</td>
<td>2-2811</td>
<td>250</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>赤石 (赤石、熊野)</td>
<td>93</td>
<td>263</td>
<td>赤石・町民センター</td>
<td>2-3150</td>
<td>1,000</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>松江 (松江、松松新)</td>
<td>76</td>
<td>168</td>
<td>松江老人愛の家</td>
<td>2-2734</td>
<td>70</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>富里 (富里)</td>
<td>515</td>
<td>1,384</td>
<td>富里へき地生活福祉館</td>
<td>3-2046</td>
<td>70</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>奥尻 (仏沢、奥尻、谷地、武士川)</td>
<td>618</td>
<td>1,587</td>
<td>奥尻小学校</td>
<td>2-2025</td>
<td>2,000</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>宮津 (宮津、東風泊)</td>
<td>125</td>
<td>378</td>
<td>宮津生活館</td>
<td>2-2179</td>
<td>80</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>稲穂 (野名脇、稲穂、勧大沢)</td>
<td>69</td>
<td>196</td>
<td>稲穂自治振興会館</td>
<td>2-3186</td>
<td>80</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>南部</td>
<td></td>
<td></td>
<td>南部小学校</td>
<td>2-2201</td>
<td>300</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

赤色については大規模特殊災害時
<table>
<thead>
<tr>
<th>建設中の状況</th>
<th>管理責任者</th>
<th>開発業者</th>
<th>訂購責任者</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
</table>
| **コンクリートブロック平屋建**
| 建築設計、防災無線を受信機、空気防止無線機、停電時用発電機 |
| 木造平屋建 |
| 建築設計、防災無線を受信機、空気防止無線機、停電時用発電機 |
| 木造平屋建 |
| 建築設計、防災無線を受信機、空気防止無線機、停電時用発電機 |
| 木造平屋建 |
| 建築設計、防災無線を受信機、空気防止無線機、停電時用発電機 |
| 木造平屋建 |
| 建築設計、防災無線を受信機、空気防止無線機、停電時用発電機 |
| 木造平屋建 |
| 建築設計、防災無線を受信機、空気防止無線機、停電時用発電機 |
| 木造平屋建 |
| 建築設計、防災無線を受信機、空気防止無線機、停電時用発電機 |
| **鉄筋コンクリート2階建**
| 建築設計、防災無線を受信機、空気防止無線機、停電時用発電機 |
| 木造平屋建 |
| 建築設計、防災無線を受信機、空気防止無線機、停電時用発電機 |
| 木造平屋建 |
| 建築設計、防災無線を受信機、空気防止無線機、停電時用発電機 |
| 木造平屋建 |
| 建築設計、防災無線を受信機、空気防止無線機、停電時用発電機 |
| 木造平屋建 |
| 建築設計、防災無線を受信機、空気防止無線機、停電時用発電機 |
| 木造平屋建 |
| 建築設計、防災無線を受信機、空気防止無線機、停電時用発電機 |
| 木造平屋建 |
| 建築設計、防災無線を受信機、空気防止無線機、停電時用発電機 |

*アラーム：大規模特殊災害対応社会 警備コープ株式会社 監理*
避難経路は目に、頭に、しっかり刻みこもう

米岡自治振興会館(100人)3-2558

富里までの生活福祉会館(70人)3-2046

青苗小学校(1,500人)3-2352

青苗中学校(1,500人)3-2024

新生ホール青苗(500人)3-1367

赤石自治振興会館(80人)2-3049

町民センター(1,000人)2-3150

赤色については大規模特殊災害時
南西冲地震が証明した危険地帯
この地域が安全な避難場所だ
地形を頭にたたきこんでおく
避難時の集合場所は家族で
常に確認しあおう
避難行動の備え
シミュレーションはしつぎるということがない

1. 月に1度は家族で防災会議
災害時に家族の避難経路、集合場所、連絡先、役割分担、基本的な心得など、家族全員で常に確認していきましょう。

2. 遠くの親類より
ご近所との連係
地域の防災訓練、町内会の役割分担など、いざというときの連係の訓練を通じて防災意識を高めましょう。

3. 聴覚障害者は携帯カードで準備万端
外出先で災害に見舞われたときの用意に、自分の連絡先や状況を知るための質問カードを作り、常に携帯することが大切です。他に、体に障害を持つ人は、いざというときの対処を常に病院と確認しておいてください。

4. 深いガラス傷は
要注
gラスが深く刺さって抜けないときは、無理に抜かず、固定したまますぐに病院へ行きます。

5. すり傷、刺し傷
小さな傷の場合は傷口をすぐに洗い、消毒カゴをつけて包帯で巻く。大きな傷は即座に病院へ。

6. 一般的なやけどの応急処置は冷やす限る
皮膚が乾いていている場合は患部をこすらないように、静かに水道水などで冷しましょう。

7. 骨折はとりえず
固定しよう
骨折の恐れのあるときは、患部に帯を当て、固定してから必ず、その場で安静にしていきましょう。そのままで適宜しなければならない場合は、患部を動かさないように、静かに移動しましょう。

8. 避難したら事態が落ち着くまでは帰宅しない
災害状況が収拾しないときには帰宅して、二次災害に巻き込まれる場合は多いもの。町の許可が出たまでは避難場所で落ち着くことが肝心です。

9. 災害時の道路は緊急車両優先に
避難車は緊急車、必ず徒歩で！道路は緊急車両の活動用に開けておきましょう。

10. 車を運転中に
避難する場合
危険地帯を避けてもすむかに車道左側に寄せ、カーナビで情報を収集。その場で乗り捨てられてはキーを差し込んだまま、ドアロックもしないように。
非常用持出品は
厳選、軽量、コンパクトに

一これが最低限の
応急手当グッズだ
包帯・消毒ガーゼ・はんそうこう三角
布・はさみ・消毒石ケンナイ・消毒液・
抗生物質の錠剤・体温計・ビンセット・
安全ピン

一食料品は
腐食してくない保存食を
各種レトルト食品（副食）・各種レトルト
に飯・缶詰・ビン詰のほか、赤ちゃん
がいる場合にはミルク・ベビーフードなどは必須品です

一生き抜くのに
必要な水は1人1日
3リットル
飲料・塩・水に必要な水は1人1日3
リットル。家族の人数に応じてポリタンク
などで常に用意し、ときおり入れ換えて
おきましょう

一ラジオ・電池・
懐中電灯は3種の神器
情報収集、夜間の行動に。ラジオ・懐
中電灯・電池は欠かすことのでき
ない必要品です（電池は常に新しい
ものを用意しましょう）。

一卓上カセットコンロと
キャンプ用ストーブ
野外生活で便利なのがカセット燃料
を使い卓上コンロと、キャンプ用の各種
ストーブ（たき火用）類です。

一非常用衣類は
季節ごとに揃えたい。
とくに寒い冬は厳しく、非常用衣類
（手袋、帽子、毛布等）は必要最小限
のものを、時に応じて万全に整えてお
きましょう。

一暖房器具は
キャンプ用の
携帯グッズが便利
釣りにキャンプに、さまざまな携帯暖房
器具が発売されている。がざるげ
長持ちするものを用意しましょう。

一貴重品はいつでも
持ち出せるように
災害時は家に戻れない場合が多い
もの。印鑑・現金・預金通帳・各種カード
類など、いつでも持ち出せるように、
ひとまとめにしておきましょう。

一ざっというときの
スゲレモ小道具
マッチ・ライター・ポリ袋・剪切り・携帯
食器・ピクニックシート・ロープ・筋・十徳
ナイフ・予備のメガネ・メモとボールペン
なども、ひとまとめにしておきましょう。

一非常用持出品は、
男性で15kg、
女性で10kgが限度
あえめれもこれと欲張らず、貴重品・医薬
品・食品・衣類を中心に、総重量は、
男性15kg、女性10kgを目安。ザック
など持ち運びやすいものに入れ、コン
パクトにまとめておきましょう。
防災ノート

家族が離れればなりになった時の
集合場所、連絡先

<table>
<thead>
<tr>
<th>姓名</th>
<th>電話番号</th>
</tr>
</thead>
</table>

家族の連絡先（勤め先、学校など）

<table>
<thead>
<tr>
<th>姓名</th>
<th>電話番号</th>
</tr>
</thead>
</table>

火事・救急車…119番
警察………………110番
天気予報…………117番

消防
奥尻消防署…2-2047
青苗分遣所…3-2351

警察
奥尻駐在所…2-2016
青苗駐在所…3-2350

病院
国民保険病院…2-3151
国民青苗診療所…3-2331

町役場…………2-3111
青苗支所………3-2321
NTT……………113番
北電奥尻営業所…2-2353

電話不通の場合各地区避難所設置
孤立防止無線機にて役場に連絡（p22, 23, 24, 25参照）